



里見八犬傳 拾二編 卷廿一



18  
709  
69





門 遠 13  
 第 709  
 卷 69



明治  
 月  
 年  
 講  
 示

南總里見八犬傳第九輯卷之二十一

東都 曲亭主人編次

第百子回  
 里見侯白濱旅櫬を葬は  
 大法師穗北小客情と果を

くつて去のけの... 却説信乃毛野道節莊大角現八小文吾親兵衛門の八犬士、大代四郎照文主僕と  
 俱諸川の驛稍盡る飯店に立寄て晝飯を喫果去る去向の便宜と相譚ふ或の閑  
 宿より船小乗り之安房へ渡る順路を陸を占むる速きも庵主先君本基朝臣の御  
 送骨と馳ぬる路の近きを貪りて風濤の險に逢ふ今ゆふ犯さるは且穗北の一談の然りと皆  
 共侶の路と武藏へ取るを以て迂遠くを憶む時且延滞せ然りと其の君命と家と留る者不  
 似るの思へも貞良は有種義士今番かその那病患の安危に向き開かず不義今公道を  
 宗とせ人情を缺る所あり又人情を先せ其公道をいせすと思ひ難く衆議尚區々なり

八犬傳九輯卷之三

文英堂藏



け。道即單決断して。餘人左も右もあれ。那水垣落點。我復雫言の幫助。不ゆる恩。我を  
多くあれど。順路。就く。義。非如一响。天目。安房。入ると。然る。不義。我の。士。を  
稻村殿の。愛。懼。せ。ぬ。や。咱們的。穂。北。立。寄。る。今。別。議。乃。と。毛。野。と。の。議。  
喜。多。俱。大。照。文。談。を。目。今。具。不。所。れ。と。大。山。が。欲。す。下。の。人。情。不。信。乃。と。毛。野。と。の。議。  
在。因。て。我。們。思。惟。小。庵。主。並。小。登。崎。主。の。年。來。我。黨。と。聚。合。て。君。不。爲。思。欲。る。本。意。  
遂。の。大。功。例。る。は。先。君。の。御。送。骨。と。安。房。へ。伴。做。一。層。の。大。功。也。我。們。を。招。會。の  
君。命。より。重。か。る。信。庵。主。登。崎。主。御。送。骨。と。衛。奉。と。安。房。へ。赴。は。る。勿。論。不。欲。却。我。們。の  
亦。一。兩。日。身。の。暇。と。賜。之。那。穂。北。の。夏。仍。許。立。寄。る。と。允。され。公。道。人。情。兩。全。す。缺。き。の。か。へ  
之。但。一。大。江。親。兵。衛。自。餘。の。七。人。と。同。く。他。も。亦。招。會。の。使。使。庵。主。俱。を。返。命。と。言。え。上  
へ。ぐ。や。い。と。議。ま。る。親。兵。衛。推。禁。め。て。開。の。と。と。御。送。骨。の。あ。り。も。進。退。庵。主。の。上。在。り。咱。們。の  
七。個。の。義。兄。弟。と。相。伴。を。安。房。還。れ。と。御。説。初。より。兼。る。獨。別。れ。那。里。の。や。且。那。水。垣

落點の義決と豫知の對面せし思ひ。か。の。便宜。本。意。稱。ふ。と。思。ふ。と。然。れ。ば。莊  
小。も。現。八。大。角。小。文。吾。も。共。侶。の。點。頭。て。大。山。大。塚。大。阪。の。意。見。の。中。大。江。の。議。論。人。情。の。似。く。公  
然。之。庵。主。海。谷。あり。と。異。口。同。様。不。度。幾。衆。議。稍。一。決。ま。り。登。時。大。江。沈。吟。な。頭。と。拾。げ  
ら。ち。點。頭。諸。彦。の。情。願。定。以。り。信。の。下。と。上。と。料。不。似。れ。る。兩。館。の。人。及。御。孝。順。の  
と。り。先。君。の。御。送。骨。改。葬。の。義。不。も。必。し。も。七。人。の。死。齊。成。ある。と。然。折。る。和。殿。連。を  
相。伴。を。參。り。凶。事。と。吉。事。と。混。雜。と。不。便。の。思。召。ら。め。然。先。拙。僧。と。登。崎。生。の。御。送  
骨。と。衛。奉。り。一。日。の。多。く。安。房。へ。入。り。と。兩。館。の。竹。え。あ。け。御。改。葬。の。事。果。て。更。又。和。殿。連。の  
旅。宿。の。赴。死。相。俱。と。然。而。見。參。入。奉。ら。ば。迺。支。那。階。級。の。吉。凶。混。乱。と。す。の。義。の。同。意  
る。和。殿。連。の。地。方。も。拙。僧。們。の。相。別。れ。穂。北。の。御。を。過。る。折。水。垣。許。立。寄。て。逗留。十四。日。及  
び。拙。僧。們。の。又。安。房。より。多。く。和。殿。連。と。迎。の。與。穂。北。の。造。り。て。對。面。見。其。時。候。過。て。音。耗。る  
く。各。位。の。那。里。と。去。て。上。總。ま。來。て。館。山。の。城。の。入。り。等。の。然。と。決。不。約。束。あり。迎。接。品。語。を。も



わが言、這談、什麼、と、可憐、小、情、語、示、其、道、即、親、兵、衛、自、餘、の、大、士、も、然、い、美、く、そ、の、談、定、佳、妙、之、  
 親、兵、衛、と、代、四、郎、の、這、回、新、増、加、を、我、們、七、名、の、招、會、の、外、使、で、い、我、們、安、居、へ、ま、あ、る、ま、進、退、を、  
 俱、せ、ん、の、私、の、似、て、私、を、い、庵、主、今、我、黨、を、御、道、の、一、椿、事、は、是、兩、館、の、私、與、る、れ、も、御、送、骨、を、先、の、  
 者、臣、等、と、後、お、せ、る、が、則、君、臣、上、下、の、階、級、理、の、當、然、と、い、つ、べ、執、教、諭、の、徒、と、も、皆、あ、る、の、  
 外、亦、別、談、を、言、美、代、四、郎、憶、を、合、咲、て、數、を、以、身、を、使、使、達、れ、ま、り、甲、斐、あ、る、今、亦、故、  
 主、們、の、謀、も、一、期、の、面、目、の、上、を、本、意、を、と、不、勝、の、然、い、然、い、と、思、大、士、們、の、有、徳、折、中、も、孝、  
 嗣、次、國、大、卿、云、が、命、云、云、と、い、出、て、送、憾、も、方、を、り、け、當、下、登、崎、照、文、々、大、士、の、う、ら、向、  
 い、の、御、向、中、の、生、り、の、ま、の、日、卑、職、紀、三、を、と、那、水、垣、許、訪、せ、折、東、人、夏、仍、の、病、患、の、重、き、を、  
 夏、の、趣、及、和、殿、達、の、稍、久、く、那、果、止、宿、の、顛、末、を、知、ひ、の、ま、か、さ、立、寄、て、安、否、の、問、も、思、ひ、か、  
 とも、衆、議、一、決、と、路、異、な、れ、今、番、素、懷、と、果、か、る、諸、彦、那、里、に、送、り、ぬ、る、の、意、は、何、の、か、  
 と、い、の、懐、き、財、囊、と、圓、金、二、束、と、合、か、扇、兒、を、用、に、ら、載、て、喃、諸、君、子、這、見、金、の、今、番、

尚、幸、い、和、殿、達、の、環、會、の、時、の、費、用、取、せ、と、館、も、賜、り、お、伴、當、の、親、共、們、を、八、個、み、を、  
 す、わ、せ、遊、雪、と、か、て、王、僕、十、七、名、水、垣、許、十、五、日、止、宿、の、用、を、已、前、の、雜、費、を、り、り、宜、く、  
 相、計、い、ひ、と、耳、迄、示、し、七、件、の、金、を、恭、く、遊、與、せ、と、八、大、夫、阿、志、の、心、と、り、左、右、を、受、む、一、  
 而、要、時、小、音、の、商、量、を、果、て、道、節、を、答、へ、親、兵、衛、除、く、の、外、い、ま、寸、功、中、の、臣、等、も、有、徳、  
 寵、恩、の、實、加、餘、の、も、今、ゆ、に、美、當、感、は、臣、等、も、亦、先、君、の、御、送、骨、の、外、伴、を、仕、む、に、該、る、  
 とも、未、而、館、不、拜、見、せ、ざ、れ、ば、そ、の、義、隨、意、を、さ、す、開、と、い、り、て、八、個、の、親、兵、を、俱、し、七、穗、北、赴、人、  
 那、人、の、御、送、骨、の、外、伴、勿、論、を、送、れ、且、水、垣、落、點、の、義、士、を、亦、莊、園、を、以、て、非、除、十、人、三、人、還、留、  
 客、あ、れ、と、雜、費、の、事、を、缺、く、ぐ、も、い、ま、館、の、御、恩、澤、を、他、們、に、傳、へ、る、為、に、這、見、金、の、拜、受、  
 者、他、們、の、讓、與、へ、い、然、と、も、人、數、を、還、留、見、思、ね、る、那、五、十、子、と、忍、圖、の、敵、の、城、内、に、洩、す、  
 えて、又、禍、鬼、を、惹、き、出、す、そ、の、義、も、後、安、な、れ、伴、當、の、美、只、音、用、捨、と、願、い、れ、ぬ、我、一、個、の、  
 愚、衷、あ、ら、自、餘、七、個、の、美、我、兄、弟、情、願、の、如、く、な、れ、就、中、在、下、那、塔、公、翁、小、思、美、我、あ、れ、初、の、發、

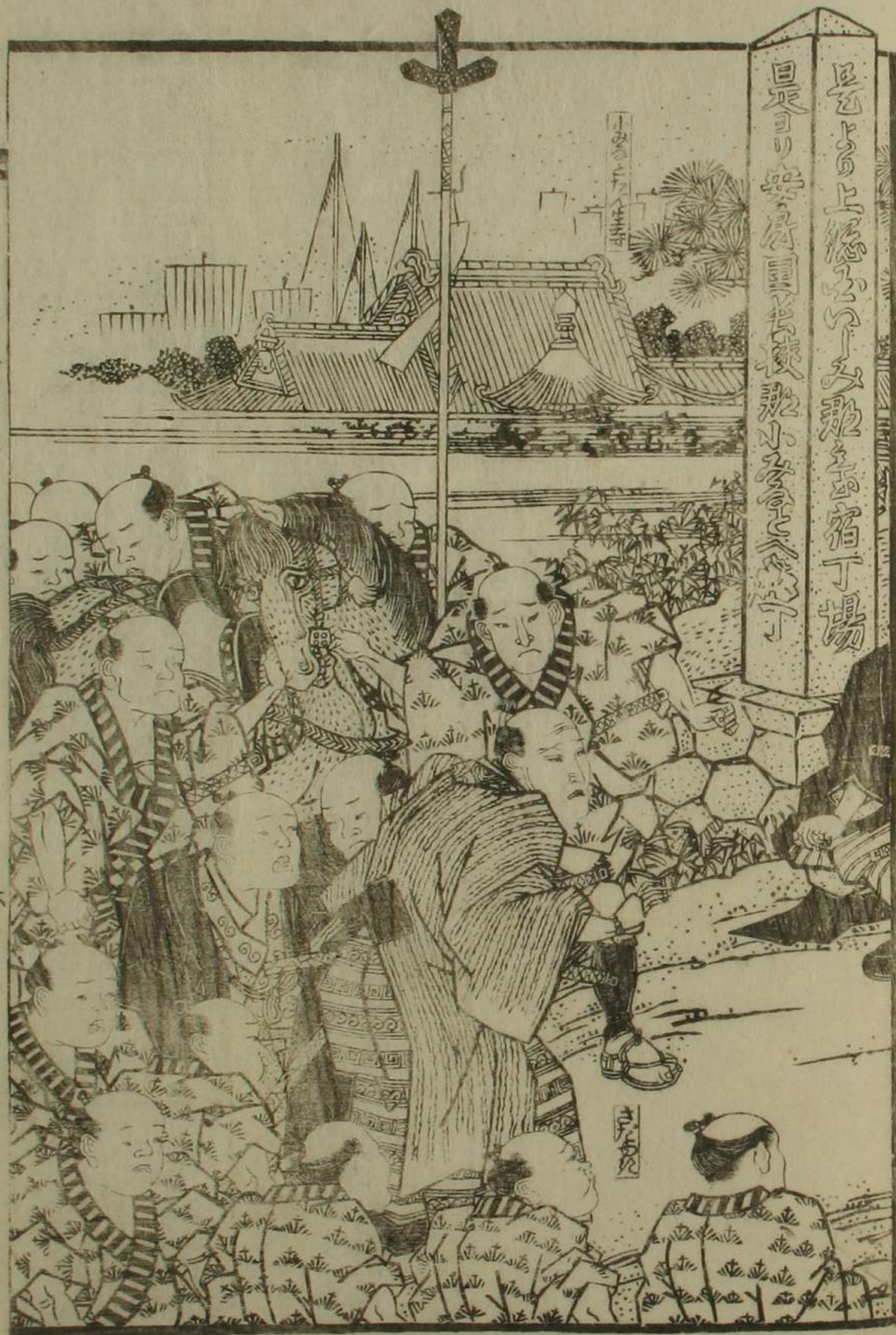












六





建正寺を皇山延命寺と喚ばる。大客歳よりの中あり。去年落成を祝ふ。智識の僧侶の集り。初祖の住持の一人の看主と衆徒四五十口を取置る。その故大山寺より而先靈の廟墓も亦子方の墳墓も尚改葬あり。今番不測の義利に因りて遷骨と迎せられ。瀧田稲村の西侯の墓の中を改葬の儀式大なる儀に延命寺へ入れしめ。安葬の事なれ。且廟墓を墳墓をも併の寺へ遷す。因て、大徳の山鼻祖として住持を又元者と猛可不定められ。これに負ひ則ち諷小依て白濱俱し。間話休題。念程の白濱。皇山延命寺の目園主。家臣杉倉木曾公氏元東六郎辰相と首と。兵頭有司十數名並龍田の老候よりまかせられ。老黨有司近習の毎東峯前之水門目船船貝六郎と共通計四十名。當山看主の老僧と諸寺院の住持の參取ひ。若幾十名。或は女関或は本堂在り。或は之の立寄。櫓板を迎せ。門前を装束あり。且之箇組する番を揃多くあり。又高張の挑燈五六對あり。門より本堂に至るまで中黒の花錦添做ある。白麻の幔幕。張張透間も。張耳も。磬石左右の數箇。固の輕卒一百名。袴の襷の叩。膝の

入り。上まで寒袷結。白の捍棒。突立て非常の傲る者。門前も亦かの如く。齊整を推て。況本堂の甚嚴。其の甚。紫雲と疑れ。金色の本。その枯草。微笑の容顏。貴。然。純龍の画天井より。至。金華幔。幡天。甚。美麗。佛の御前の臺。盤。燭。柁の鶴。龜。香。自。生。道。の。呵。責。を。知。り。少。少。華。首。前。の。金。蓮。の。熱。池。の。水。生。生。存。錦。綵。の。打。敷。眼。赫。赤。打。鳴。を。鉦。磬。耳。を。噪。く。供。物。の。餅。五。色。之。雜。阿。吽。の。獅。座。の。香。爐。を。多。數。脚。の。机。案。小。經。卷。を。大。冊。の。靈。籍。見。其。基。在。現。美。を。盡。し。善。を。盡。す。通。て。の。事。の。光。景。の。細。名。状。を。看。官。の。餘。を。查。せ。り。却。説。靈。柩。の。申。牌。時。候。延。命。寺。の。本。堂。の。居。ま。り。を。看。僧。並。負。の。照。文。們。の。守。護。し。て。退。き。大。客。殿。の。請。待。せ。れ。看。主。の。老。僧。看。茶。の。礼。あり。介。後。杖。倉。氏。元。東。辰。相。大。と。別。席。の。招。せ。而。侯。の。佈。を。信。君。命。の。趣。光。大。功。の。譽。を。且。今。多。當。山。の。住。持。と。改。葬。の。導。師。と。則。布。施。と。錦。綵。の。袈。裟。紋。紗。の。法。衣。白。輪。子。の。灰。衣。と。袈。裟。一。具。の。賜。の。兩。楮。事。の。大。功。を。猶。親。不。賞。せ。る。登。時。堀。内。貞。幼。の。不。服。更。を。列。席。の。中。に。在。り。美。服。の。大。の。本。意。あり。況。本。山。の。住。持。と。御。談。の。多。く。思。ふ。龍。恩。



















黒苗の潮を千住の御小末より不題再説信乃毛野道郎莊以現八八角小文吾親兵衛の八武士  
 畧表の、大照文主僕別れより代四郎並伴當を二個の親兵衛と俱一路十二名略武蔵の宗取りて  
 次目穂北小末にけられ、恥て水垣宿所造る東人殘之夏初の中風の病患初の隨をもあつた身も勤  
 ねと有種重戸の幾も易そ音待のく篤らけの折親兵衛と代四郎の初對面を日れ有種夫婦胆成潰  
 老、這老幼兩個の豫望と向くも親兵衛大人備を及代四郎荒井山を戦死の夢あり、あつた別  
 人殺と語り、大士們のさもそと大江が富山再出世の事、顛末伏姫神の靈驗擁護姥雪一家萬死を  
 免れて富山に在り、よき事の告て疑ひ解れ、有種重戸の心小文二世智小奴婢們も、傳つて有種嘆  
 みて、凡まるるを稱え、徳而這主僕士名權具逆旅の杖を住せ、大の音耗を程、有種と團生折々  
 大江親兵衛が素藤妙椿と討束はる、二度の大功音老孝嗣次團太親三們、忠孝義侠及他們が、命  
 命の、這回結城を、地藏菩薩の奇異利益、基朝臣送骨祖公、又淨西影西、父子忠  
 孝の美談、徳用並、惻利、経緯、素頼の、風塵、理の天助成朝の理、非明、断禍、反て福、傲りける、よき解、示し

大法師の先君の送骨、安房へ俱一なり、更々大士們を迎ふ來を約束、照文主僕と共侶、途を  
 袂を分り、折其事の尾、送代、語を續て、最詳、告、有種、听、毎、不思議、を、と、と、感、嘆  
 膝の、找、む、覺、を、憐、ま、天、助、真、福、を、這、大、士、和、も、漢、も、の、後、傑、身、小、不、自、の、我、身、大、山、主、若、舊、縁  
 ありて、友、垣、入、る、と、許、され、幸、い、な、と、信、の、心、の、他、事、を、け、音、待、遊、馬、ら、け、介、後、道、節、自、餘、の、七、大  
 士、と、同、量、を、御、照、文、と、預、り、金、二、束、合、合、有、種、不、是、贈、り、を、里、見、殿、の、賜、ひ、受、收、め、を、  
 公、あ、ろ、を、有、種、知、れ、尚、訝、り、受、き、り、大、士、們、齊、一、諭、を、落、點、主、を、一、束、の、我、們、が、齋、齋、を、以、実、我  
 兩、館、の、賜、の、事、情、を、推、き、を、水、垣、の、翁、結、城、致、黨、和、殿、の、豊、嶋、の、舊、臣、を、大、山、大、塚、小、由、縁、を、然、  
 大、山、が、復、讐、の、始、り、親、兵、衛、と、除、る、外、我、們、這、里、三、四、箇、月、止、宿、の、事、を、發、崎、生、少、知、り、義、侠、を、感、  
 這、回、君、侯、の、賄、せ、ぬ、餘、金、聊、あ、り、と、翁、と、和、殿、を、餽、れ、る、れ、則、是、兩、館、の、賜、の、不、異、を、以、の、義、を、  
 查、り、か、と、い、れ、て、有、種、辭、ふ、由、を、沈、吟、し、答、る、を、同、好、知、己、の、事、を、位、て、を、憂、分、者、断、金、加、頭、の  
 交、り、あ、る、止、宿、の、久、し、を、數、を、遮、其、諸、賢、の、齋、を、貴、介、の、恩、賜、と、美、れ、固、辭、を、も、不、敬、不、似、ら



今も功をたふ受なる心も付麻をたふ思難と現八代尉也然も不思ひあはれ我共侶も安  
 房へ赴はるか我両侯はの年來賢と招きあはれ博く愛して棄ぬるよ折はれはれまよと有種  
 願くは我父残三六病を不且預けられ莊園をれ目今驥尾附を後便宜とあはれ  
 不道節信乃其介自餘の大士代四郎也亦云と解論と薦る黄金不義を思有種只得受戴  
 是重戸と召て件のよと告てを儘一裏と遣與其重戸大士代四郎也對ひて親も恩賜と召  
 作んと考心も看病勤に身を起し軀と與て退りける是も後八代尉見參の衣裳と準備  
 たの般纏置りぬも孰も都て外物を飾も好と思ひを餘と求まると要せぬせ房より大の音程を  
 皆々一旬有餘逗留の程五月の初よりし時候有一日、大照文の親兵伴當と從へて穗北宿所本ふけ  
 有種と召て迎へ大士代四郎と俱對面と管待大と召られぬも、大照文歸路と召て取長談せ  
 大士代四郎の御談箇様々と傳へし且御邊骨改其の事の顛末と告知せ有種大正月以来大  
 士止宿の歎いと述夏仍の病患の安否と丁寧に向慰也然而兩侯より夏仍有種賜る東西兩三

種朝鮮人没時服夏引の麻苧をと折櫃幾箇か歎歎めと目録と共と遊與まを有種の目録  
 大士の傳へる那一裏の歎いと照文の尚云云と交違あはれ今又有徳も恩賜の大と召れ且差て  
 拜謝するも左右も有數系も受も收り難と大士代四郎も為不歎いと舒て且良將の仁義の餘澤を  
 解示せ有種を多く目録と受戴て照文の答も在下門貴藩の以與一介の功をたふ今兩度の恩  
 賞の真加餘も造化の義父の病患瘥ら必安房へ參上て御恩と拜去もえん義宜く歎成を  
 願くはそのと心て亦、大士代四郎も歎いと瀟る程の回も傳へる世智小才二あるゆて  
 來る恩賜の折櫃も燥小與運入れて退るとる折有種屋と喚返らして郷食饌をいそまを  
 大と急不推林不也、有種も告も今番火急の君命也十二郎と共侶小大氏と迎ふ來れ然も管待  
 預りかざる大士連姥雪も仍其時を程と召れ疾もと只管去向を促も探殿肉も有種強ることを  
 先大士と看め果子と薦め立まるとる諸袂も携りて鏡も送りの丕を差る程も重戸も召れかて  
 來り、大照文對面と親小代とて恩賜の歎いと稟考且、大法師もて十念と授るは親の病





志

後登藏



念重調  
と戸と去  
受十去て  
大  
小

後登藏

小文吾

志の

志の

志の

ね由戸

志の

志の

志の



厄解除の與ふ後八代士代四郎一個も重戸の對ひて皆懇切に別を告げて是の大人の本病を厭ふが  
 ほど憚りて這回故意諂慰めまの依りて別れ本意を不悞に申す一言一句送の口誼長  
 らぬも人言はれ時移りて下晡のけり開中、大の素より酒肉を疎け唯人の装束をうち長視  
 たる鈍まり心惜地の焦燥のめり推禁みさる事の結果も等程の照文諸大士代四郎の幾番と  
 なく東人夫婦不辭してさるを收めさる退て身装束を出て來て大家の告別を俱の外  
 立れ前後の夥兵伴當們は是より先伴部屋に酒飯の音待漏る者も事終ると照文の告  
 女関の真道に在り當下有種世智小才の八代士代四郎の行裏を待てて在河まで送るは  
 この不仕の客の結城より復止宿をさ知りて安房へ赴て折中速く送るは心  
 這穂北の社客の八代士代四郎の結城より復止宿をさ知りて安房へ赴て折中速く送るは心  
 岡憚りある有種豫他們を制めまの日の離別を告知其徳而八代士代四郎の  
 住河原の朝も、大照文が安房よりして漕へ來り迎の快船二艘を一艘は初八代士  
 俱にたる加多親兵十三名と伴當を皆無きけり大夫の乗る船の輕く走らるる人爲の船の

種が幾の程の飲飽り來りる。食の龍酒壺もも。大家筆で是を見て恣猛可る別路の心用  
 ひ交遊の情義を感ぜぬもの然る者陸に向いて離別の口誼を違ふ目送る者水際を立く猶  
 再會と契んと欲する船も岸を離れて隅田河さして漕下を招かざる弱蘆聲咻れ眞子  
 鳥さう友と思ふに憂えあれ飲いのあれ世類る越八個の俊傑と八箇の三火王共侶の串と大  
 法師の功德の手とゆ御師の錦の袈紗衣をて緇法衣今も。扨敷行脚の打扮の身雲水小  
 儘し追風競ふ快船のまゝあけの津波立月の高き日暮春て甲夜闇を星光水映るも雲と  
 疑れ身短夜の明ぬ程ふと管工女を建連なる艀小楫と腕の漏り力と勳しをたけり。意亦大江  
 親兵衛の兩國河を解纜の折と勢ひ相似て事情同く所も。那里麻鬼を討つ艀船這里を弘  
 扶言の逢逢庫る法師も里見の寶貨船八の壁打出の機艀葦笠隠れる名を顯せる天の下俯仰瞻  
 まへ上總なる磯山傍に水長鳥安房の百濱皓々と明く時候小風恬て港口小船果るまほべい  
 自評云這前後二回の上もいる如く。全異平和のものと也。且則回も此に至りて商議の段もあれの看











八信道大塚信乃成孝。犬田小文吾悌順。又これを忠信孝悌四約の一隊と云ふ。これをも甲乙の  
 る。あつた。只八約の字順。小據る。是より又二十間引下りて、大法師の細代包の轎子ふ  
 り。乗る。左右。麻の社杯の股佩。袴の。兩個の侍と。所化四名相従ひ。一對の柳笠ふ  
 紫の厚子。總結び。と。天鷲絨の飾。囊被る。長柄の傘。ある。頭囊。ある。蟬塗。の杖。淺  
 水。登。兒。雨。衣。菟。など。持る。伴の奴隸。猶。多。い。然。も。八個の犬士。の。馬。上。優。れ。を。執  
 も。青。年。二十。三。則。後。也。面白。く。姿。美。し。い。又。筋。骨。逞。く。て。身。材。を。叩。け。り。現。鼻。直。く。口  
 横。ら。る。人。面。異。る。所。不。似。る。も。美。貌。醜。顔。人。さ。ま。ま。の。中。玉。成。を。壯。支。們。今。青。雲。の。時  
 り。て。前。驅。後。從。の。伴。當。り。く。徐。ゆる。馬。上。の。光。景。の。這。頭。の。這。頭。の。社。規。小。む。を。路。の。ゆ。ゑ  
 良。賤。男。女。の。ち。敷。馬。の。評。り。現。て。歩。を。停。ぬ。る。り。の。後。而。八。犬。士。の。代。四。郎。貝。六。郎。と。先。小  
 幸。引。り。て。瀧。田。の。城。の。多。う。第。二。の。城。門。を。馬。より。下。り。て。俱。小。女。関。ふ。ち。登。れ。小。水。門。目。案。内。の  
 達。て。遠。侍。小。造。る。程。の。大。法。師。も。續。り。て。参。り。ぬ。代。四。郎。と。貝。六。郎。の。俱。小。を。席。末。小。在。り。て。ふ

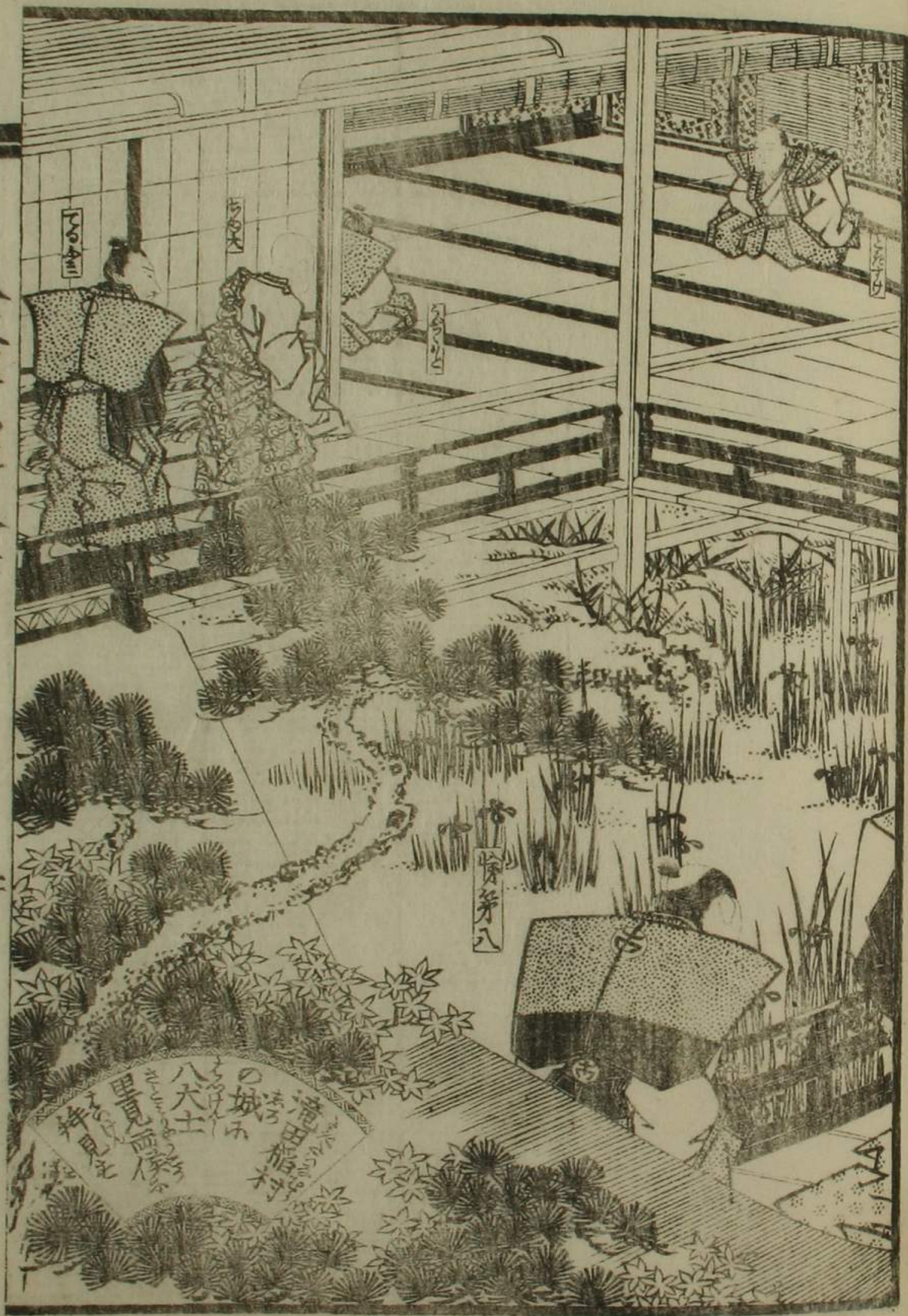
義実。王。六。昨。日。當。城。小。還。り。ぬ。今。朝。の。亦。稻。村。の。城。より。と。犬。士。們。を。進。退。の。與。ふ。と。堀。内。藏。人  
 貞。約。と。荒。川。兵。庫。助。清。澄。と。を。瀧。田。遣。し。て。執。事。た。ま。ふ。ぬ。初。蛸。崎。照。文。を。招。賢。の  
 使。と。奉。り。て。関。の。八。州。を。ち。巡。り。義。実。主。尚。在。任。の。時。も。な。れ。今。番。犬。士。們。が。初。見。参。成。  
 瀧。田。より。初。見。て。且。故。老。の。家。臣。奉。り。て。その。日。の。執。事。を。う。り。終。始。本。末。人。を。易。ぶ。愛。さ。ぬ。例  
 と。を。考。え。け。り。間。話。休。題。悠。而。貞。約。清。澄。の。大。を。旁。に。八。犬。士。對。面。し。て。老。侯。の。仰。を。傳。へ。程。を  
 く。逢。せ。ぬ。あ。の。一。と。一。と。馳。く。奥。へ。ま。あ。り。ける。折。瀧。田。隸。の。老。黨。有。司。們。も。八。犬。士。對。面。を。見  
 参。の。式。を。傳。達。し。訖。て。廣。書。院。の。案。内。を。ま。り。介。程。の。八。犬。士。晋。上。の。五。明。扇。並。大。刀。馬。代。を  
 各。前。の。閣。に。て。謹。て。も。な。る。小。姑。且。と。義。実。主。上。壇。の。間。出。す。く。儲。の。裨。小。着。多。く。貞。約。と。清  
 澄。の。壇。前。の。左。右。の。侍。近。習。東。峯。萌。三。佩。刀。の。役。也。そ。の。後。方。を。傳。り。ける。登。時。龍。男  
 老。黨。の。犬。士。們。の。姓。名。一。個。々。々。小。告。げ。ぬ。且。晋。上。の。執。事。悠。々。と。都。て。披。露。し。ぬ。折。習。の。母  
 不。可。く。い。て。來。て。件。の。扇。子。大。刀。馬。代。を。執。接。て。御。前。近。く。進。り。ま。れ。義。実。主。上。の。前。犬。士。們。の。席。を



賜ふて先而茶の礼を仍る。里見の家例也。年始の祝壽及初見参の折を親戚の人々  
 家老城王の毎家初薄茶と。主君の賜る。而茶の礼と倡へら。かの如  
 此毎の茶を賜る。酬いませ。三度の礼の片茶。王君の賜る。而茶の礼と倡へら。かの如  
 賜ふて。酬いませ。許され。兵頭以下の有司功ある者の格式。他の茶礼を仍る。不  
 孟も賜流。受戴。退く。開が中。今。大。未。雨。茶の礼を仍る。人。み。是。上。る。宋。と  
 を茶礼畢て。義実主。大。主。を。身。邊。近。く。侍。う。て。合。笑。を。宣。ま。う。彼。們。予。が。外。孫。擬。え。ん  
 とい。あ。ら。い。へ。ど。我。身。の。年。來。退。隱。の。公。有。る。今。安。房。殿。と。閣。に。て。信。物。々。々。對。面。も。非。人。の  
 意。不。從。也。先。見。参。の。試。檢。之。却。感。心。の。事。を。言。れ。親。兵。衛。が。二。ひ。の。大。功。世。有。る。と。言。ふ。ら  
 開。は。仕。の。上。を。か。其。外。の。這。七。名。い。ま。當。家。小。參。ら。む。と。信。乃。道。郎。甲。斐。の。猿。石。毛。僧。路  
 姫。の。窮。厄。を。救。ひ。合。の。一。大。功。也。又。毛。野。莊。大。角。現。八。小。文。吾。們。の。結。城。也。那。僧。俗。の。惡。と。懲  
 也。及。て。之。の。勅。敵。と。一。人。も。殺。戮。せ。且。先。君。御。送。骨。と。異。る。當。國。入。れ。り。し。も。莫。大。の

勲功親兵衛が富山の功名及汝們七名が猿石結城二箇所の智計功名俱に當家の與りて  
 いまは仕さる。己前不在。今也。八雄満足を。招は。心。下。の。地。聚。合。て。俱。に。安。房。殿。に。仕。は。楠。家。に  
 八臣新男四天の優り。憑。か。る。各。忠。勤。と。盡。ね。と。懇。切。な。答。慰。を。て。不。受。賜。る。恩。命。例。也。べ  
 かね。八。犬。士。俱。に。唯。々。と。言。兼。と。宣。し。一。獻。酬。三。度。及。ぶ。時。一。人。別。に。大。刀。一。口。執。も。價。千。金。を。  
 多。自。合。て。賜。り。け。る。式。礼。の。時。稔。り。て。祝。壽。を。宣。果。一。大。法。師。と。召。さ。せ。め。折。蟹。崎  
 照。文。由。稻。村。より。か。り。ま。り。ぬ。と。呼。ぶ。俱。に。召。れ。て。見。参。を。登。時。亦。義。実。主。一。大。法。師。の。功。德。を。宣。り  
 照。文。亦。招。買。の。宿。命。と。果。て。勤。勞。と。答。さ。せ。め。就。中。延。命。寺。に。二。十。餘。年。信。心。稔。ら。ぬ。を  
 り。神。靈。佛。陀。の。真。助。屢。經。験。あり。遂。に。當。家。の。宝。貝。を。八。賢。者。と。汲。引。け。今。日。季。と。和。漢。の  
 侍。わ。る。と。て。而。茶。の。礼。を。仍。る。余。後。亦。姥。重。代。四。郎。と。召。さ。せ。て。貞。幼。仰。を。傳。へ。り。姥。重。與  
 保。老。て。衰。む。百。里。の。遠。を。往。復。せ。道。節。們。の。八。犬。士。俱。に。か。り。参。り。不。ける。功。鮮。小。る。と。ま  
 恩。賞。の。稻。村。殿。に。必。脚。沙。汰。を。ら。せ。先。の。旨。と。存。せ。と。片。茶。の。礼。を。允。さ。せ。り。恩。命。送。る





千

八犬傳九章卷三十一

清田村の城の  
 八犬士の  
 里の  
 神田



八犬傳九章卷三十一

礼券三

孝券七

忠券五

信券六



隈も身程々不過なる。就中代四郎の感涙を林示難。良も稟し。信而見参の礼儀畢  
 且目送りなり。然前八犬士と首を。大昭文及代四郎に至るも。各二家老を杖に。向ひ歎ひ。願て姑  
 謝して。俱々遠侍へ退り。小程由り。又別席に招せられ。貞約清澄瀧田の老黨其亦甲列坐  
 也。則仰を。天氏の毎並。十一郎代四郎。明日稻村殿。参上り。館見参。一々。延  
 命寺の寺退り。明日稻村へ。参會。若犬士の休憩所。是出されて。當城内。不在。只今御飯を賜  
 べ。又別席。御食。饌と。羞。大士。昭文。同席也。大と代四郎。亦上下。二箇。別。甲の  
 出家人。其。饌。小魚肉を用ひ。乙の格式。異。大士。列。と。允。され。膳部。の。疎。も。も。あ。り  
 ぞ。中酒の折。老黨。若黨。那。這。心。屬。て。不。要。を。薦。め。け。恩。徳。食。を。奉。く。事。果。く。又。其。を。賜。ひ。果  
 子。と。賜。小。姑。且。八犬士。老黨。有。司。君。恩。の。歎。ひ。を。演。て。罷。り。立。程。小。大。代。四。郎。も。出。く。事。

大犬士。向。ひ。明。日。稻。村。へ。参。會。不。時。分。契。り。相。別。て。白。濱。へ。か。る。去。ぬ。昭。文。の。老。侯。侯。は  
 御。要。あり。と。思。へ。獨。君。所。留。を。遠。侍。侍。り。也。獨。昭。文。大。士。著。到。の。注。進。稻。村。殿。参。り  
 折。館。の。仰。れ。る。わ。む。所。せ。あ。る。と。余。程。八犬士。代。四。郎。と。俱。退。り。出。て。休。憩。所。へ。赴。き。今。番  
 猛。可。不。造。な。れ。八犬士。同。居。の。宅。の。第二。の。郭。の。邊。に。在。れ。妙。真。代。四。郎。們。賜。り。宿。所。と。相。距。る  
 遠。く。且。昭。文。の。屋。舗。に。其。首。より。猶。這。方。あり。と。允。八犬士。伴。當。の。從。不。隨。相。俱。て。先。照  
 文。の。宿。所。へ。赴。き。関。呼。門。老。執。接。人。名。簿。を。遞。與。し。招。會。せ。れ。尉。旁。の。口。狀。俱。不。歎。ひ。と。舒。る  
 の。昭。文。の。歸。宅。せ。れ。を。依。り。退。り。去。て。俱。妙。真。の。宿。所。へ。立。寄。り。先。之。の。安。否。と。向。ん。と。ま。り。余  
 程。妙。真。の。親。兵。衛。の。別。れ。日。も。果。一。存。は。逆。放。の。安。危。と。思。難。て。替。寐。不。好  
 多。に。曉。毎。枕。を。安。く。せ。り。小。約。一。旬。有。餘。を。經。て。親。兵。衛。の。西。國。河。原。也。館。の。御。使。登。崎。生。料  
 中。逢。ふ。と。隨。即。素。藤。再。征。の。進。る。宵。快。船。も。乘。り。上。總。の。館。山。へ。推。寄。り。城。を。抜。け  
 妖。賊。麻。鬼。兵。を。悉。討。夷。して。又。七。犬。士。を。素。人。と。結。城。多。く。大。庵。へ。赴。り。ぬ。と。目。の。目。を。と。り。



ここにて  
這里今宵えん妙真の慰め後の音耗を写程の、大法師が先君の御骨壺を馳せり照  
文と共に結城よりかゝる来る。且白濱の延命寺にて御改葬の事の顛末及親兵衛八  
個の犬士代四郎と共に武藏の穂北の杖を住めて、大法師の迎ふ身も、水垣許在と  
信具は妙真の安堵で、幾日か、知れぬ當城の八犬士同居の  
為と、身比より番匠の猛可居多聚いまで造り出さる宿所の遠くの中、取程日毎  
折々外に出て現るも、樂しく赤い館の寵恩を仰げ、高麗の林昔屋の廣中、小僧數と、是れ  
と、一旬あつた、昨日の、今日亦、曉天の八犬士代四郎さへ、大照文と同船を  
白濱の延命寺に着到のゆえ、隨即老侯不見参の為、今日當城へ召寄ると、云事此  
田を今朝有司の御知、甘く、舞足の踏と、知る追の独妙真の、音音申す  
軍節の、稍、方、目、秋、會、着、の、代、四、郎、の、飲、故、主、道、即、自、餘、の、犬、士、も、  
親、兵、衛、の、故、御、の、由、所、以、の、御、飾、の、錦、の、有、磯、貝、の、花、を、添、る、花、貝、の、下、枝、の、言、數、の、反、

兩個の孫、新、織、麻、衣、を、被、せ、て、被、け、俱、妙、真、が、宿、所、不、來、向、慰、め、後、の、目、  
秋、の、野、邊、今、咲、く、梅、子、も、孫、の、愛、の、老、女、心、の、親、切、の、御、食、心、の、倍、い、右、福、押、  
て、の、届、く、架、の、鍋、さ、き、孰、で、汚、目、の、金、蓋、被、け、布、巾、を、極、合、で、洗、い、流、し、昨、夕、の、飯、粒、小、  
桶、の、底、に、浸、ま、れ、肥、滿、中、の、炊、事、の、助、手、の、火、燒、鳥、榻、の、楢、盒、の、み、ま、お、現、當、の、刷、匙、は、異、  
名、の、師、の、目、細、鳥、目、白、厭、の、早、漬、の、茄子、の、小、瑤、理、青、鴨、の、醜、口、小、櫛、を、辛、の、き、戴、の、菓、實、が、  
鶏、頭、海、苔、萌、美、の、鳥、首、の、皮、を、鳥、鱈、津、物、魚、類、小、藻、濱、筑、の、目、面、と、梳、打、を、山、長、  
丸、百、の、目、長、く、下、晡、の、時、候、親、兵、衛、小、文、吾、道、即、們、の、八、犬、士、の、外、面、來、參、程、代、四、  
郎、の、伴、當、と、走、り、呼、門、を、と、告、れ、妙、真、の、遠、く、内、より、開、く、折、戸、卷、石、の、庭、の、  
空、内、せ、る、犬、士、の、緑、頬、を、登、る、坐、席、の、鏡、八、圓、果、八、個、の、賓、客、圍、坐、せ、る、座、着、の、折、敷、の、  
打、鯉、魚、昆、布、搗、栗、執、具、の、卒、と、薦、也、胆、向、心、を、老、女、東、道、の、差、配、廻、の、難、を、  
當、の、連、の、鳴、く、茶、と、呼、音、音、們、畏、の、姉、妹、俱、不、濡、の、禪、の、端、折、返、と、拭、の、禪、



外へ汲み盆を余碗の八曜の六稔ゆり月日星今再會の折を以て給侍も對の義姑即婦  
 欽めと哀しき涙を遣る瀬中暖簾寒はて俱不出て來り累ね茶托西三箇載き茶碗は  
 曆よりより野の花を色香薄は疎茶を送る蘆舟道節の朝に額衝  
 退はて妙真の後方一需要時ゆるカ二郎尺八親も暮全出て來り八代士們を伴く  
 る面色をて依祖母の左右坐又代四郎の庖門も找入る權且も像忙は這里來て兩個の  
 孫の存を合笑る音音們俱其頭坐占けり是より先小文吾妙真より向ひて  
 絶て久く大母の恙も其出で我れも結城徳北の昔も皆崎生お  
 れは、大大徳と皆崎生を徳北に迎へ渡せし水路を今時天小船の白濱へ着くとそ  
 皆當城召せられ老候不見夫參り只今宿所退る親共衛ををせしと思ひ立  
 寄りの大塚大飼へ行徳以來相識るもゆりの餘大山大阪大川大村四個の義兄弟も  
 訪慰れとれれ久相伴をて引會され信乃現八道節莊も野太直識り認

も名告とて皆云と慰れ妙真の涙の難上心も兩袖を顔不掩を俯  
 沈む親兵衛も亦慰む喃大母の義表出時の不祥を憶は別とての思せなり  
 ち禍鬼は又拂は這大兄連小父公共侶咱每帰參の再會され欽ぞ樂からち泣  
 ぬよとれて妙真も涙をこめ點頭て開け居られと查り大田主身  
 顔とて何沼蒲が父の房分先胸の思われも亦目拭慰  
 ゆり小文吾親兵衛歎け同ト親のあり世徳産下の松の梢瞻仰て愴然と入りも  
 昔心及知信乃現八自餘の四太共侶の今世の家尊家母又亡妻は懐天塚大村果  
 舊巢遙け八百も越路あはぬ濱ち跡の都疎り一箇の雛衣名と紀心と東情  
 人異あて憾似る喜多何勝回里の池の処鳥鶯夜の鶴子と先と鳴雄の中  
 婿婦鳥翅をたて惜喜音と更る單節們の有徳の團坐し者尚存命て侍る  
 独もせん喜れん儘の世回短人の命を胸の眞實也懃也練復ま平行の涙一筋泣















甲見の家  
古記  
内東  
見記  
載る

軍役大山道節が隊不隷くべ。今より後臨時の御用あふ代四郎等住なれ御用を折を退  
て。老を願ふ一も時服と黄金三百兩を賜ひ各各君恩の身お餘を拜謝しなると俱小遠  
侍の退りふふの日の恩賞の只這母のまを。是義お甚重田素藤と前後兩度の征伐の折有功の  
え紛れぬ堀内藏人杉倉武者助堀内雜魚太郎東六郎們及荒川兵庫助浦安力助小森  
但一郎登相山八浦安牛助若屋八郎甲稅戶賀九郎們を首老。士平功の漏されぬ或秩禄を  
加増せられ或職事と登格席と薦めはる雜兵。金銀青枝賜ふと各差の那晋文か  
介子権と送れ疎忽おとされ誰か推躍せざるは大家恩と拜。宿願は退り置酒を所親の  
祝壽の盃を薦めけり升が中杉倉武者助直元堀内雜魚太郎貞任小森但一郎高宗浦安  
力助逆友の各守城の頭人等。此より上總小在り。今番皆稻村君下を。是恩賞預り  
けり唯政木孝嗣石電屋次園太卿二も恩賞受る由るなり。八代士八俱小を不誤りて千  
載の遠恨と全然又杉倉氏元の衰老と勤勝。又堀内貞任。齡七旬小遠を。俱不致仕

入之専し耳夫二一

大英堂主裁

まく思折る便宜にけり氏元の子直元の家督と渡。貞任の男兒存れば任貞住を増養  
嗣中て所生の女兒と妻せと。各致仕退隱の情願書と呈り。不義成親お林示さる。饒一の  
のりか。氏元も貞任も。膏請稟して已ざられ。竟おその職役を免除せられ。則直元貞任不  
親の所領と賜ふと俱小兵頭小做され。廳南榎本兩守城の頭人。中浦安牛助友勝と登相山八郎  
良千二を奉り。錦山城預高宗逆友の故の成。俱小上總。赴け。是後話。介程八代士。當目  
稲村の城を退折。大法師と相別れて。照文代四郎と共侶。各人馬を従て。日暮。境野宿所。還る。次  
日も未明より八代士と連立て。大山寺。赴く。代四郎を伴て。奴隷を。俱小先伏姫の祠堂。不詰。  
各香奠と献り。更不動と拜。更富山。登り。伏姫の墳。墓。詰。一箇の法  
師。麻の法衣。素襪。石。机。結跏趺坐。誦經。蟬聲。高。多。見れば。是。別。命。寺の  
寺主。大法師。けり。大家。を。討。果。れ。同。難。登。時。大。經。卷。石。上。圍。て。大。士。們。報  
る。中。僧。昨。日。稻。村。殿。退。折。途。を。伴。當。皆。寺。還。亦。復。行。脚。の。打。粉。と。昨。宵。這。山。も。階。り









八犬傳九輯卷三十一

花

大英正統

湯

二世力

枯樹心

虎

妙真饗饌  
 去々  
 八犬士  
 歎待



八犬傳九輯卷三十一

新正

代四年

みゆめ

二世尺

十人

初



待せしめて祝言の盃を薦られ又一日の昭文代四郎君を大夫合宿招取入て答礼の酒を装き只  
交遊の上のまゝ官途の事猶敏系とて義実主同く時を大士を召す事又義成主は遠無折  
折稻村の城を召きて面談を命ずるもあけり候へ程の夜夏過て秋涼に七月の十日あまうふより時候  
有一日義実主又大士を召す事あるは館儀成の渡らぬ候に大法師も召れけり僅まありあつた  
あるは大士何支金ぐんと思はれり列りて見参入るに面侯則同席して小書院に在りて身邊より大  
法師と登崎昭文と仰りて登時義実主の八代大士と召親着て席を賜て宣す今日所要の内談  
を汝們我外孫同下な宿因の意衷を隠さず生言へ大師も傳不聴か任じり言府内あひあひ  
るは似れぬも抑這延命寺と云の親へは金碗八郎孝吉當家創業の功臣なる故主神餘の與小祿を  
辭して刺自殺せり一切ての子大輔孝徳と云ふ大をたつて東條の城を領て我女塔せせり思ひ  
ある大輔も亦幸あはば一旦失せりて罪と釀る饒き據のあゆれ首代て頭影斬棄願  
ひのまわ料敷行脚の兼い不做一以乘干餘年の修行道と佛意を稱は既に兩椿事の大功あり

便是其罪の償ふ不足るの然れも堅固出家され今更不還俗と薦るるもふくして兼引るべき  
のあはれ但の親子二世の忠臣反て後なるん佛の教小稱ふとも陰徳をも陽報る先祖の  
與不孝る世の人も亦逆恨の思人因て一向安房殿と商量する爰あれ今白地の向試汝們各  
各西生の二親あめり俱小宿因を推して伏姫は宿世の母とて大師を現世の義文と倡るとも  
以るはあはれ下然心と汝們皆大をりて氏小做せり是自然妙契され今更他姓を冒さず但  
今の氏私稱を其姓と氏同下かきいハ姓を改め氏を更んと欲者必天子を奏しよて赦免  
あふあはれ仍今とほざる者也然今俗小氏といふに其の氏あはれとて家跡多れ唐字より氏ハ則源  
平藤橘菅原清原の類を姓ハ朝臣真人連宿禰の族即是之壁京里見の廟字也源朝臣ハ  
姓ハ今俗人の名と向家名実名什麼とて家名家跡唐字のひも実名名乗之汝們氏ハ源  
平藤橘その他もほあるを今改め金碗とて俱小氏小做せり大塚信乃金碗成孝とて稱を  
ばれ余の後に金碗氏今より八個の義子とて子孫あはれ異るに遮莫陪臣とて氏を更る天子ハ



願ひまゝ者例ゆゑと云ふもあらずを皆義実が孫とて室町殿足利請宣宣必奉聞奉せらるべしとの  
 義汝們同意ある京師へ使たまはせ甚麼を問ふ天子們の問と答難し沈吟する今  
 俗ハ皆庶字を稱せ姓氏ハ要る不似れども族ハ男尊卑を知る氏と姓ハあつたは改る  
 大事の議目今好マを目今決断せざるも思ふ心ハ不品堰く水はあねども  
 詞の委々極流道節一個膝と我も隨即答宣さる御誼美らぬ臣等ハ人相因ふ儘にて  
 舊姓を改めて金碗氏を冒せん恐れざる理義分明誰推辭せざる勿論臣等ハ所生の父母あり  
 本来の姓氏を改むるは伏姫土の宿世の母とて那神靈年来臣等ハ窮死を幾番も救せぬ  
 以テ神恩踴然とて疑ふべからざるを畏るも外孫ハ擬せられぬ御教諭感佩仕らぬ且臣等  
 が各感得ある靈王の如く世々因果の義我兄弟ハ名も死すも悟りて竟全々集りて當今並雙の  
 賢君仕るとはゆひハ則是、大師の二十餘年行脚の功德指南ありしより有徳は是、大師ハ  
 亦臣等が宿世の父也指南の徳義ハ師表向宿世の父現世の師表一身二扮の因ふ儘とて義父と

仰師父と稱え金碗は目目せと云ふ御誼ハ至極の道理とて思ひなれぬ也京師へ使を遣さる  
 又計ひて願ひくは義徳宣宗も人も存る誇言不似れども異體ありて心同は道即ち兼仕れ自餘七  
 個の義兄弟も同意勿論ありと云へ左右もこれ信乃毛野莊大角現八小文五も親兵衛も今  
 道節が即座の論議感激せられて仔細及び皆共仰願御表来て同意のよし宣はる義実合笑  
 點頭ありて安房殿他們領美さる誰使遣さると問せぬ義成主然し此の使節ハ大事ゆゑ  
 犬士們の内中二兩名を遣さるゆゑと答ふ義実主然也と云ふ領して又犬士們うち向ひて然今番  
 室町殿へもまゝ正使汝們の内中一人を誰京師へ赴はせしむと問ふ詞も果敢  
 程大江親兵衛突然と我も願ひて喙黄多小猴子が年も才智も勝りぬ我兄弟をうち超て  
 願ひ宣せし鳥飼もなれと云ふ御使と小臣仰付きたまふか自餘七個の犬氏們年来諸國を遊歴さ  
 る地理細考ひし小臣ハ年四才の秋より富山の洞窟成長して春まで登人間ゆると云ふ  
 去る當國安房の地理も知る所也然今幸ひ皇城の地を踏み見聞を就て後學する



上よりゆつむの鏡まきぬかと思ひて請京共義実主笑は義成主をさへて安房殿より忠ひぬ  
 ぶ親兵衛の智勇提れ身材も亦大人備され童顔いも純は且額髪も若るれ空町殿へ  
 使きて都の態不熟ももさる好くさる他遣へて仰義成主異議もさるの義永りゆぬ然らば  
 副使共十一郎を去る後他四方使して京共親兵衛の性を謹慎と旨とされ常失官於者之  
 因て親兵衛願ひ隨意這回使を課せ共十一郎もさの意ゆて俱京師共赴て心ゆく親兵衛が  
 幫助もさるねと宣へ親兵衛が欽ひゆ之照文忻然と席を避て八代主の上へも微臣辱を使と奉り  
 外ひ今番倘漏されれば遺憾のさひと御説一期の面目かひと宣せ共餘の七代主大事共使の  
 撰本本意も漏るれ高童年も親兵衛共超られ争ひ共為小比皆云と然共と宣せ共大  
 法師の始より思ふも面色もさる像く黙然と却上りゆゆの一由も平和のゆてさる往  
 境へ入るもさる話説るもさる楮敷言涯のあれ共卷を更て亦下果解分ると聴ぬか  
 南總里見八代傳第九輯卷之二十一終



